

用語解説

■大崎クールジェンプロジェクト

- ・「高効率化」と「低炭素化」に資する技術として、究極の高効率石炭火力発電である石炭ガス化燃料電池複合発電（IGFC）と CO₂ 分離・回収を組み合わせた革新的低炭素石炭火力発電の実現を目指したプロジェクト。

【関連リンク】《次世代火力発電の開発》

<https://www.energia.co.jp/energy/general/newthermal/newthermal.html>

■IGFC (Integrated Coal Gasification Fuel Cell Combined Cycle : 石炭ガス化燃料電池複合発電)

- ・石炭ガス化複合発電（IGCC：石炭をガス化し、水素と一酸化炭素を主成分とする生成ガスを製造し、ガスタービンと蒸気タービンにより複合発電する技術）に燃料電池を組み合わせ、発電効率をさらに向上させる技術。

【関連リンク】《次世代火力発電の開発》

<https://www.energia.co.jp/energy/general/newthermal/newthermal.html>

■CCUS (Carbon Capture, Utilization and Storage) /カーボンリサイクル

- ・分離・回収した CO₂ を再利用したり、地中等へ貯留する技術。

■カーボンリサイクル

- ・CO₂ を資源として捉え、これを分離・回収し、コンクリートや化学品、燃料等へ再利用すること。

■隠岐ハイブリッドプロジェクト

- ・再エネの導入拡大に向け、再エネの発電量の変動を調整するため、特性の異なる 2 種類の蓄電池を組み合わせ、効率的な充電・放電を管理・制御する技術の実証プロジェクト。

【関連リンク】《隠岐ハイブリッドプロジェクト》

<https://www.energia.co.jp/nw/safety/facility/okihybrid/project/>

■VPP 実証試験

- ・電気自動車の駆動用バッテリーをリユースした定置型蓄電池システムや、その他再生可能エネルギー等の分散型電源を束ねて、1つの発電所のように統合・制御する実証試験。

【関連リンク】

≪EV駆動用バッテリーのリユース技術を活用したバーチャルパワープラント実証試験について（2019年10月17日発表）≫

<https://www.energia.co.jp/assets/press/2019/p191017-1a.pdf>

■CO₂-SUICOM

- ・石炭灰を使用してセメント使用量を減らすことに加え、製造時にCO₂を吸収させて硬化することで、CO₂排出量を削減できるコンクリート。

【関連リンク】

≪環境配慮型コンクリート「CO₂-SUICOM」に係る事業の経済産業省公募事業採択について（2014年8月1日発表）≫

<https://www.energia.co.jp/press/2014/771.html>

■CO₂-TriCOM

- ・CO₂および石炭灰の他、電気事業に伴って発生する副産物である電柱廃材を混合し、マイクロ波による加熱で焼結する過程でCO₂を固定化する技術。

【関連リンク】

≪石炭火力発電分野のカーボンリサイクル技術「CO₂-TriCOM」(シーオーツートリコム)がNEDO公募事業に採択されました（2020年7月14日発表）≫

<https://www.energia.co.jp/press/2020/12589.html>

以 上